

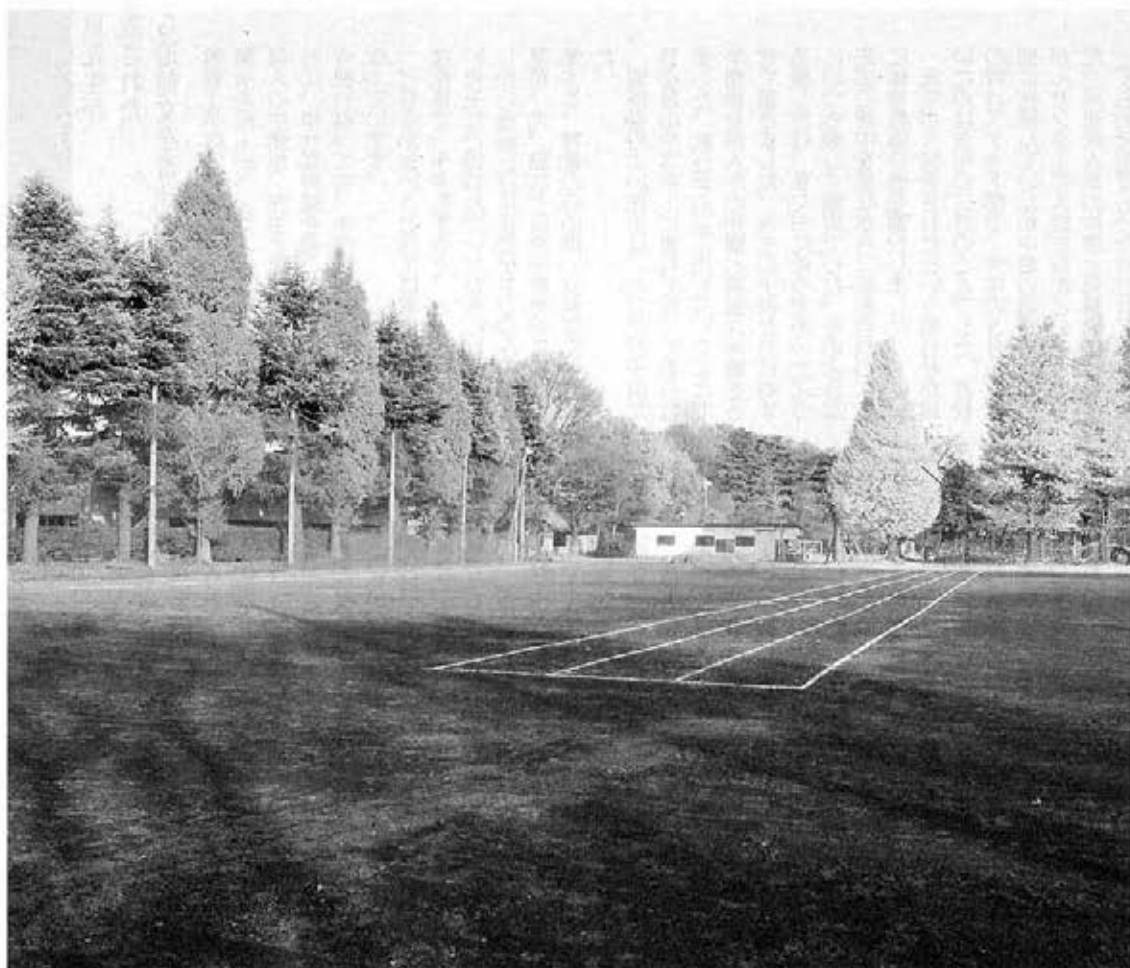
桐朋学園同窓会

会報

題字 小柳 敏志 校長

31号

2008年12月25日発行
桐朋学園同窓会



目次

- | | | | |
|--------------|-----|---------------|-----|
| ■ 追悼 | 2① | ■ 同窓会役員 | 16① |
| ■ 同期会・OB会 | 6① | ■ 事業報告・会計報告 | 17① |
| ■ クラブ活動報告 | 13① | ■ 大学入試報告 | 18① |
| ■ ゴルフ大会・囲碁大会 | 14① | ■ 桐朋学園入学試験の現状 | 19① |
| ■ 桐朋を去るにあたって | 15① | ■ 桐源の集い・他 | 20① |

今号で、宛先不明者の動向調査のご案内をしています。詳しくは本紙 20p と別紙をご覧ください。

追悼

2008年の3月21日に亀里旦先生が、7月25日に宮本大典先生が逝去された。先生を偲んで教え子の皆様から追悼文を寄せいただいた。



亀里旦先生
2008年3月21日逝去

亀里旦先生を偲んで
先生の背中を見て、体育教師を目指す
浅田博功(16期)

桐朋在学中、私は何人もの先生より薫陶を受けました。今思うと、桐朋には立派な先生が多くおられました。中でも中学入学時、最初の担任をして下さったのが亀里旦先生で、私は、それは計り知れないほどのことを、先生から教えていただきました。

当時の写真を見ると、入学したての小さな子供達の真ん中に、いかにもキリリとした先生のお姿があります。容姿が立派なだけでなく、子供たちにとっても優しく接してくれた先生でした。当然多くの子供たちが先生にまつわりついていました。私もその筆頭で、時間があると先生の自宅に入り浸っていました。先生は結婚をされてまもなくの時期で、

料理上手な若い奥様が、よく私たちにお菓子を作って、食べさせてくれました。何人の生徒が、先生と奥様の温かい気持ちに、幸せな時間を過ごしたのでしょうか。今振り返っても、本当に素晴らしい思い出になっています。

どちらかという先生は気難しく一徹な性格で、ややもすると、とっつきにくい先生だと思われていたかもしれません。しかし実際には生徒はもちろんのこと、草花、犬、猫など自然や動物をこよなく愛する、博愛の心の深い立派な先生でした。

面会見のよい先生は、たびたび子供たちを登山やスキーに連れて行っておられました。私はその手伝いということでも卒業後も何人かの仲間と貴重な体験をさせて頂きました。先生の子供たちに対する接し方は、私たちにそうであったようにいつも優しく誠実でした。そのような先生の背中を見ながら、私も当然のように体育教師の道を選択しました。

先生が入院をされたという知らせが届いたのは去年の三月のことでした。高校の時バスケット部で、今年の3月まで桐朋に在職していた和中君の紹介で有明のガセンターに入院されたとのことでした。早速何人かの仲間と見舞いに行くと、とてもお元気でした。しっかりされておりまし

たが、病氣は相当に進行しているという話でした。

9月に立川の病院に移られ、闘病生活を送られておりましたが、健康が戻ることはありませんでした。何とも残念です。暮れに見舞いに伺った時、先生は薬のせいしか少しようとしておられました。私は昔から剣道をやっていて、丁度友人の紹介でドラマの剣道の指導をしておりました。先生に耳元で「先生、NHKのドラマで剣道を教えてきました」と話しかけると、先生は少し笑顔を見せて、「浅田、剣道だけはものになったな」と言ってくれました。これまで、先生は普段からあまり人を褒めたりすることの少ない先生で、特に私などは褒められた記憶もありませんでしたが、その時は先生が少し喜んで下さったような感じがして、ほっとした気持ちでした。

亀里先生から教えて頂いたことは、あまりにも大きく言葉では表現することは出来ませんが、今後も大切に守っていきたいと思います。先生、本当にありがとうございました。ご冥福を心よりお祈り申し上げます。追悼の文にいたします。

亀里先生のこと

先生の大きな声の内緒話が教ってくれた
齋藤 一郎(20期)

思い出す亀里先生の顔は、いつも笑顔である。あれほど叱られてはかりたいはずなのに不思議な気もする。しかしその笑顔こそが、僕たちに残してくれた先生の心のなみである。

バスケット部の先輩方から、俺たちの

頃は怖かったなぞという話も聞くが、怖いと話す先輩の顔も笑っている。つまり本当は恐ろしくも何ともなかった。だいたい桐朋という学校は男ばかり。しかも13歳から18歳の生気盛りのティーンエイジャーばかりなのだから、そう甘い顔など見せるわけにいかなかったのだろう。中一から高三までバスケット部に在籍し、中三、高三の担任だった亀里先生を、その頃こちらにはたまた生気なガキだったくせに、先輩たちの言いつのをまねて、陰で「亀さん」と呼んでいた。一人前の顔をして、それでも親しみをこめてそう呼んでいた。

毎年行われる組替えで、高校三年の時G組になった。担任は亀里先生で、周りを見渡すと尾崎、西尾、吉本と僕のバスケット部員が四人もいて、なにしろ一癖あるような同級生がたぐざん集まっていた。ほかの組からも、G組は変な話題にされた。当然、自分たちも気づくが、何だか居心地の良いクラスでもあったのだ。後年それを先生に伺うと、気になるヤツを集めたんだと、確かにそう言われて、それでまた笑顔向けられるのだだった。

今では考えられないが、朝のホームルームに一度遅刻してしまうと、先生が怖くて、数層が高くなって、続けてさほるのが常習になっていた。一時目目には間に合うように行くのだから、あれは反抗だったのか、気が弱かったのか、多分両方で遅刻を続けた。そんな馬鹿なことを繰り返していた三学期のある日、ふと亀里先生に呼び止められて、おい齋藤、

遅刻の回数を削ぐといいたからな、と言われた。このままじゃ卒業できないからなとその時は真顔だった。申し訳なく、肩をすぼめて消え入りそうなくらいの気持だった。ちょっと個人的な理由もあってもうどうでもいいと思いつめていた頃だったから、先生の大きな声の内緒話がある。その時の鬱屈した少年を救ってくれたのである。屈折した少年の抱えていたものは、全てお見通しだったのかもしれない。ルールはたがえるが、どこか良い所もあると思ってくたさっていたのかもしれない。

現在、僕は遊友出版という会社をやっているが、その前から先生とお会いする度に僕の書いた本を渡すし、「いつも本をもらうな」と言われる。ほめられたことではないが不器用な言い方に亀里先生の暖かな気持ちが返ってきたように感じたものだった。思えば、昔から高校生に対しても、一人の人間として接してくたさっていたのだ。同期の連中と話しても、亀さんに助けてもらったというエピソードがいっぱいある。そっけないような言葉の奥に教えた子は先生の大きな懐と愛情を感じていたに違いない。

2008年の春、亀里先生を忍ぶ会が桐朋の食堂で開かれた。国立音大の教員の方々も多数参加された。スクリーンの中の先生はいつも笑っておられた。そして必ずビールがあった。先生は出席した人ばかりでなく出席できなかった人にも大きな愛情で接してこられた。良い会だった。亀里先生の実績は残されたみんなのものであると思った。

「亀里先生を忍ぶ会」
2008年6月1日(日) 午後2時〜4時
桐朋学園男子部食堂にて
曾根真人(33期)



あらし日の先生を映すスクリーンを見つめる参加者

ご挨拶をされるご遺族



深刺とした先生にひびつたりの、

夏の間気の中、山北さん(5期)、横田さん(15期)、和中先生(15期)、斉藤巨伸さん(20期)、田中訓さん(24期)の方々の声をかけにより、桐朋男子部、女子部の卒業生、桐朋学園小、中高の先生方、国立音楽大学バスケットボール部の方、蔵王スキースタールの先生等約100

名を超える方々が、亀里先生を偲んでこの会に集まりました。

会場には左右に花が飾られ、その中心には、嬉しそうにビールジョッキを掲げた大きな写真の中で、亀里先生が参加者に微笑みかけていました。

最初に和申先生が懇話会の言葉を書き述べられ、続いて参加者がそれぞれ献花台へ花を手向け、桐朋を代表して浅田さん(15期)、国立音大を代表して志田さんがご挨拶をされ、山北さんのお声で献杯をしました。

少し食堂の明かりを落として、在りし日の亀里先生のスライドが流され、テールには、先生の写真がところ狭しと並べられ、そこには、いつも笑顔の先生の姿や、大好きだったカメラを構える先生の姿がありました。

福島さん(15期)、尾崎さん(20期)、藤元さん(24期)をはじめ、芳賀さん(4期)が先生の思い出をお話しになり、先生がいつも読んでいたパーボンウイスキー(ジャックタニエル)が、会場を回りまわりました。手に取ったその瓶を、じっと見つめている方もいらっしゃいました。

また、国立音大でも教鞭をとり続けていたこともあり、音大の立川さんが、先生によつて音大にバスケットボール部が作られた経緯や、音楽そっちのけで、先生の指導の下バスケットボールに夢中になった事などを話されました。

さらに、先生は、桐朋の生徒や、音大の生徒を引率してよく蔵王にスキーに行き、その蔵王スキースタールの鈴木さんが、「私は、山形から来ました。亀里先

生が亡くなられたのはとても悲しい。先生は蔵王スキースタールの発展に力を注いでくれた。蔵王の権現様にも先生の訃報はお伝えしてきました」と話されました。

また、夏の山行、冬のスキーと、亀里先生と共に子供達を指導された宮野さん(立教小)も、その頃の思い出を話されました。

最後に、亀里先生のご子息である、亀里功さんとみどりさんが、この会の事、家族、父親としての先生について話され、お礼の挨拶で懇話会の幕は閉じたのであります。



宮本大典先生
2008年7月25日逝去

宮本先生追悼文
計画していた幸寿の祝いと

卒業50周年の同期会

内藤 紘(12期)

あまり突然のご逝去でびっくりしました。亡くなられたほんの一週間ほど前に病院にうかがったときには、永らくの入院にもかかわらず、いつものようにとても病人とは思えないほどの意気軒昂振

りであられたのに。感染症に罹られ亡くなられたとのご連絡を奥様よりいただき、びっくりいたしました。それでも、心肺停止から蘇生されたあとの最後の数日、お悔りになられたのでしょうか、奥様にされていた永年のお約束をお果たしになられなかったことが悔やまれるとおっしゃられたとか、本当に仲睦まじく、やさしさのお有りになられる先生でした。

思い出せば、私たち12期が高校一年になつたときに桐朋に着任され、すぐにはわたくしたちの担任をしてくださいました。未だ若さいっぱいで、ご自身のことを「シャチャウ」と名乗られたり、授業の内容もあまり細かい説明はなされず、生徒が「理解できない」「不満を申すと」「そのうち分かる」と一言で片付けられ、あつげに取られてはかりの授業でありました。

また、授業中の漫談も大変ユニークで、今でも覚えている傑作は「アインシュタインが来日したときに持参した『四次元の椅子』」なる奇想天外な話で、当時の純粋無垢な少年たちは半信半疑ながら、ありえない現象を信じ込まされてしまったのです。この作り話は、先生ご自身も傑作のひとつだったと近年病院にお伺いしたときに思い出しておられました。

先生は今年4月に80歳の華寿をお迎えになられました。私たちの学年は今年がちょうど桐朋卒業50年で、その記念の集まりを、出来れば先生のお誕生日にお祝いをおこなって開くことと計画していました。残念ながら、その頃から先生の入院生活が始まってしまい、先生が退院されるのをお待ちして、皆でお祝いしたいと申し

ましたところ、車椅子に乗れるようにまで回復したなら是非出かけて行きたいと言っておられたのに、このようなことになってしまい、私たち同期生一同残念な思いでいっぱいです。

先生のご冥福をお祈りいたします。

宮本大典先生を偲んで
先生の薫陶を受けて、
今自分たちがいる

大村 昭人 (14期)

宮本大典先生をご逝去に対して謹んでお悔やみを申し上げます。

私も14期の生徒は、担任としてあるいは宮本先生のご専門であった数学において全員が薫陶を受けた学年です。特に私は昭和32年から卒業までの3年間担任としてもお世話になっており、50年近くも前の当時は走馬灯のようによみがえり、感無量という気がいたします。

当時の日本はまだまだ貧しい時代でしたが、宮本先生の生き方はまさに消費に甘んじるといふ言葉がふさわしいものでした。生徒の数学教育に情熱を燃やされた一方で、夕方になると、のんびりと自転車にのって大好きなお酒を買いに出かける姿も時々拝見しました。暖房も十分でなかった当時、あの飄々とした性格と、寒い冬は体の中から暖めるのが一番である、と、楽しそうに話しておられたことが昨日のように思い出されます。

一方で数学に興味のある人間を集めて高木貞治の名著「解析概論」の勉強会を毎週開いてもらいました。数学の講義時も、話はすぐに教科書から脱線し

て、自分が何故、数学を専攻するようになったか、また数学の面白さなどや世事などに話しが及んで、そのなかで数学の面白さを語る姿が、まさに数学を受けてやまないという先生の人となりが見み出ていたものでした。

一方では、先生にとって14期の生徒たちは、今から思うとエネルギーをちりちりあまして色々な問題を起こした、頭の痛い学生であったと思います。停学や退学になりかけた生徒は数知れずとまでは言いませんが、年中、何らかの問題を起こしては先生の部屋に呼ばれて、お灸をすえられたり、諭されたりする生徒が少なくなかったのを覚えております。

宮本先生に言わせれば、かくいう私自身がその筆頭に上げられるほどの悪がきであったと思えます。時には、あの穏やかな先生が怒り心頭に発したり、時には父親のように諭されたりした経験を、今でもはっきり覚えております。私が社会で人並みに生きてこれたのも、先生の薫陶があったからこそと考えております。こうした当時の悪がきたちが首、社会で活躍をしているという事実も、先生の薫陶の影響がいかに大きかったかを実証していると思えます。私も既に66歳になりましたが、医学教育に携わる立場から、急速に崩壊しつつある医療の建て直しに、これからも一生懸命、尽力していこうと考えております。

日本では今、世界に比べて生徒たちの学力が落ちてきていることがしばしば話題になっています。特に数学の分野でその傾向が著しく、北欧諸国のような小

国の数学教育のレベルが世界で群を抜いています。その教育方針を見ると全てを教えるのではなくて、数学の面白さを教えることに重点が置かれて、生徒自身に自由に考えさせるというやり方です。まさに宮本先生の数学の授業がこのやり方であって、教育のあるべき姿を先取りされたものでした。どうか、これからの若い世代が宮本先生の意図された教育、数学の面白さを学んで、日本の石杖を築いてほしいものです。宮本先生、安らかに眠ってください。

宮本大典先生を偲んで
孤筆 二做ル
一本の菊

教育が凜然として霜の中に立つ

小山 武男 (23期)

沢山の懐詩と、沢山の思い出を遺して、宮本大典先生が亡くなった。糖尿病が原因の感染症であった。高校での3年間担任であった事と、同じ三鷹市内に住んで卒業後も付き合いをさせて頂いたことで、小生が追悼文を書く巡り合わせになったが、文章が硬くなる事は、職業病としてご容赦願いたい。

卒業後、先生と度々お会いする様になったのは、26、27年前から。丁度今頃の季節、土曜日の昼頃、桐朋の職員室にアポもとらずにお邪魔し、そのまま飲みに行つてからであった。在校中は決して成績の良い生徒ではなかった小生に対して、先生はその様な事は全く意に介さず、その後、愉快なお付き合いをさせて頂いたと感謝している。

宮本大典先生を偲んで
孤筆 二做ル
一本の菊

その様な先生が、相朋を退職される際

に、
青我関三紀 旧友宴重陽 十日東籬下
孤筆傲晚霜 (青我三紀ヲ関シ) 旧友
重陽ニ宴ス 十日東籬ノ下 孤筆傲霜ニ
傲ル

なる漢詩を創られた。先生が教職を誇りに思い、学業の出来不出来に関係なく見守っていて下さっていた根源を表す時である、ずっと暗記している。

一方で先生は、小生が知る限り、25年よりもずっと以前から立派な糖尿痢であつたが、これも意に介さず、右記漢詩を創られてしばらくしてから、

鯨飲驚人不足誇 咸亨耳順酒量加 舢船一棹金盞盡 天地播揚萬物料 (鯨飲人ヲ驚スハ誇ルニ足ラス 咸亨耳順ニシテ酒量加ハル 舢船一棹金盞盡キ 天地播揚萬物料ナリ) (咸亨・先生の雅号)

なる漢詩をものにされている。家内からは、先生と会うのに出掛ける度に、「先生にお酒飲ませちゃ駄目よ！」と送り出されながらついつい飲んでいた小生、些か後ろめたい感じをずっと持っていたのが、右記漢詩を拝見してからは、少し気が楽になったのを覚えている。

その様な先生も、3年前に、喜寿の祝い兼ねて熱海で開催したクラス会では泊まりがけであつたにも拘らず、一酌の酒も口にされず、体調の管理に努めておられたし、昨年10月に入院されてからも「退院して漢詩集をもう1冊出すのだ」と又丈に話しておられた。少しでも張り合いになればと、来年のカレンダーをお見舞いに差し上げた後、急に体調を崩さ

れて逝かれてしまい、しばらくはがっかりしてボーとしていた。

20年前、退職される迄は生徒指導に情熱を持たれ、その後は漢詩に情熱を持たれ、酒をよまなく愛した先生、いずれあつちで思う存分飲みたいと思つている。

司馬遼太郎、上村松園、山本五十六等々、何れか一つのテーマだけでも、先生との思い出を本稿以上に書けそうな気がするが、先生に余計な事をしゃべるなと言われそうな気もするので、いずれ小生があつちに行つてからの思い出話に取っておく。

許された字数の都合上、前記漢詩の説明はできませんし、一部、原文通りの字を使っていますが、連絡を頂ければ、先生が書かれた解説文のコピーをお送りします。



大典先生の思い出

「四次元の椅子」と「四次元の遠足」

中村元(31期 桐朋数学科)

大典先生の授業を初めて受けたのは、高2の「やなば合宿」だった。快刀乱麻を断つような明晰な解説と並ならぬ教養、ユーモラスで飄々とした語り口は、心底すごい先生だと思つた。

合宿中のある晩、要領の悪い僕は、つ

まらないこだわりで解けない問題があり、宿の玄関の上がり口の座り机で一人うんうんうなっていたら、よその宿で一杯やって来たような、いい色合いの大典先生がステテコ姿で現れ、「まだやっておるのかね、感心感心」と覗き込みながら、「ああこれはね、私にはベクトルの問題に思われるのだがね」とおっしゃり、あさやかに僕のノートに解答を書いてくださった。これにはびっくりしたが、合宿終了後、「秋の大飛躍を期待する」と書かれた激励の葉書が届いたのには、もっとびっくりした。

翌年、高三では運よく先生の微積の授業を受けることができた。教科書の話題を離れても、紙封筒にふっと息を吹き入れて丸くした形は存外難しく、簡単には求積できないというような数学的ウンチクから、国立駅から中野駅までは線路がまっすぐなので、ホームの端で目を凝らせば、幾重にも重なった跨線橋のはるか向こうに中野駅が見えるという怪しげな話などを伺った(後者は実は友和先生や錦村先生も語られていたようで、本当の作者は不明だが、少なくとも「跨線橋のはるか向こうの無限遠点」というアレシジは大傑作らしい)。

一般には知られていないが、東大にはアインシュタインが自身の理論を応用した「四次元の椅子」があり、座には一本の柱が突き出している、その柱は四次元空間に属しているため、構わず腰掛けると、座った人の頭上に柱が突き抜けて見えるという話も傑作だった。

後日先生は、この話はあまりに馬鹿

馬鹿しいので基礎クラス向きだとおっしゃっていたが、同工異曲で「四次元の遠足」というものもあった。生徒と先生が並んで山登りをするのだが、空間の位相がずれているために、生徒はひたすら登り続け、先生はひたすら降りて行くと同時に山頂に着く。「これはじゃっぴん用しゃるべきものだと思いましゅね」と語っておられ、お気に入りの話題だったようである。

僕が桐朋の数学科に勤めてからは、いつも楽しいお酒の席に付き合わせていた。ご機嫌に手を振りながら、五高寮歌を熱唱されたこともあれば、伊豆旅行の帰りに東海道線が事故で止まり、仕方がないので、岡部先生らと交えて小田原の銭湯に行き、駅前の居酒屋で飲み直したことをごもあつた。

去年の秋に入院されたからは経過が思わしくなく、4月にお見舞いに行つたときは、「この半年で漢詩が三十編も出来ましたよ」とか、「昨日は旧友が訪ねてくれたが、来てくれるのもいいが、出来ればこちらから行きたいくらいじゃよ」とかおっしゃっておられた。結局お話を交わすのはそれが最後になってしまった。桐朋には個性的な先生が多いが、大典先生はその中でもひとときわユニークな方で、匹敵する人はもはや現れないだろうと思う。

一緒にいるだけで楽しくなってしまうあの笑顔には、もう本当に会えないのだろうか。同窓会のパーティーがあれば、またニコニコとあこひけをなでながら、お見えになるような気がしてたまらない。

同期会

一期五卒の級会のこと
毎年集まり、母校の発展を願う

2008年9月27日(土)
八重洲富士屋ホテルにて

01期

山水一期の五卒生が
2007年10月と2008年
9月に続けて級会を開催いたし
ました。憶へば、我々は山水中学一期生
として、入校したのが昭和16年で、12月
には開戦となり卒業の20年8月には敗戦
で、正に中学時代は激動の真只中でした。
その級友も今は全員八十路の高齢者とな
り出席できる人も年毎に少なくなりまし
た。當時学校で御指導を戴いた諸先生方
も、みな鬼籍に入られ、昭和も遠くなっ
たとの実感です。

中央線の復々線高架工事が進んで、国
立駅の三角駅舎も取壊され、次世代の幕
開きが始まろうとしています。

山水・桐朋の同窓生として母校のさら
なる発展を心から願っての級会でした。

近年は、米川昇君に経いで村田雄一君
が幹事として諸事準備にされたので一同

御苦労に感謝しております。
2007年10月会の時の出席者は10名



(後列左から)久住真、宮沢秀寛、村田雄一、三田安則、
米川昇、出縄徳治、
(前列左から)伊集院雅英、大塚一生、枝川昇、瀧古龍雄

2008年9月会の時の出席者は6名
村田雄一、宮沢秀寛、久住真、大塚一生、
伊集院雅英、出縄徳治

出縄徳治(二期五卒)

04期

「一日でも机を並べたものは同期生」
「山水・桐朋四期生会」解散す

四期生会は昭和46年
(1971年)秋、TVカメラ
マンだった佐武正君が、当時の
建設省の土砂崩れ実験を取材中に殉職し
たことをきっかけに発足した。予想外の
土砂に巻き込まれぐるぐる回る映像は、
彼の壮烈な記者魂を見せつけ、当時企業
戦士として日本いや世界中を駆け回り
自己を省みる余裕なき我々に、母校で培
われた精神を思い起こさせてくれたので
ある。

四期生会は、同時期の卒業という単純

なものではなかつた。あの激動の戦
中戦後を生き抜い
たもの同志の会で
あった。我々は一
日でも机を並べた
ものは同期生を
合い言葉に、父や
兄の戦死、家の戦
災、疎開などで全
国に散らばった転
出者を捜し出し、
総数304名で
発足した。

因みに昭和19年
春、第一山水中
学校に入学した
者263名、昭和
25年春、桐朋
高校を卒業した者
66名である。その
間、立川の昭和飛
行機への学徒動員、
終戦、外地からの
引き揚げ、学制の
改革、学園存続の
危機、家庭の貧窮、
生活苦など、幾多
の試練があり、そ
のために転出入は激しかった。

しかし、この試練があればこそ恩師と
の固い絆、級友との深い友情を育むこと
ができたと思っている。いわば我々は同
期の『学友』というより『戦友』であった。
古希記念文集「衣食足らずとも……」は、

その結晶である。

また「西村先生に感謝す
る会」を通じ、ともしれば
薄れつつある「山水」と「桐
朋」の紐帯の一助となった
ことを、誇りに思っている。
近年、中一以来ご薫陶頂
いた西村先生ご夫妻も亡
くなり、物故会員も3分の
一を超え、病で会員辞退も
多くなったため、去る10月
24日、喜寿解散大会を開催
し、37年の幕を閉じた。

この日は1期〜6期の
代表の方々や、同窓会事務
局の中山さんのご出席を
頂き、総勢55名が集い、瀧
上君のユーモア溢れる司
会で、和気藹々と語り合
い、最後に第一山水中学校
校歌と桐朋高校校歌を精
一杯、声張り上げて歌い、
正々堂々と解散した。

今後は毎年、10月第4月
曜を4期生の日とし、渋谷
ロゴスキー(社長・長屋君)
に集まることにした。

(土居紀夫)

09期

9期同期会
少しシワの増えた童顔の71名が集まる

残暑が一段落し、やっと秋
風が肌感じられる10月1日
(水)、新宿三井クラブにて9期
卒業53年同期会を開催。今年にはC組が持



ち回り担当。今までの5年ごとの開催から今年は3年ごととなりました。当時は4クラスで卒業時の在籍は210余名。物故者、転居不明などで案内送付は170名。出席71名(当日欠席7名)でした。先生は神山、水沢両先生が出席。

受付を済ませ、ウエルカムドリンクを片手に、少しシワの増えた童顔に笑みを浮かべながら「おぉー」「おぉー」の挨拶は何とも言えない感じですよ。私萩田の司会で、物故者22名の冥福を祈り黙祷。C組代表浅岡純明君の挨拶、続いて神山昌也先生(83歳)の挨拶。「最初はカミヤマを名乗っていたが、途中からコウヤマに変え、最近もとに戻ってカミヤマと名乗っている云々。週2回のテニスを楽しんでいる」。相変わらずスマートで若々しく、お元気でした。濱藤輔君の乾杯の発声。各組代表挨拶。しばらくして水沢竜夫先生が北海道女満別周辺のゴルフツアー(3日間連続)の帰りにご来



水沢竜夫先生

場。日焼けしたお元氣な姿を披露。八十翁の唄ゴ、輪ゴ、そして卓打ちゴルフの三ゴはご健在でした。「女満別ラウン」ド終えてかけつけし、新宿のビルにさらす姿か」と一首。

D組の八木君のリードで校歌斉唱。中



神山昌也先生

締めを小川秀夫君。大締めは家原球哉君で歌会。校歌の二節の通り「好き友の奇り集い」を全員で満喫した一日でした。欠席した高岡善成先生からいただいたお電話は張りのある力強いはっきりとした声で、非常にお元氣の様子。しかし足下が少しふらつくとのこと。入院された奥様を見舞う毎日、そしてご自分の貴重な歳書全部を奥多摩の古里図書館に寄贈することが決まったこと等お話しされておりました。基村先生は体調不良とのことでご残念でした。(萩田博司)

桐朋高校卒業50周年記念11期生の集い 出席者70名の大盛會

11期

2007年6月2日(土)、明るく晴れた初夏の空のもと、国立駅の南口「せきやビル7階ホール」において、われらが「桐朋高校卒業11期生の集い」同窓会が開催された。13時開会を前に懐かしい顔立ちが続々と現れて、物故者、所在不明の者を除くと同期卒業生185名に案内をかけたうち、出席者70名の大盛會となった。

定刻に第一部の司会、浜田博君が「開会」を宣言し、冒頭に本年鬼籍には入られた、担任の西尾栄一先生並びに元校長の鈴木一成先生及び、これまでの物故者、担任村木淳一郎先生はじめ、同期生20数名のご冥福を祈って一同黙祷を捧げた。

続いて幹事長の竹下保君が、本会の実行、運営にあたり、「幹事会」組織されて1年あまりにわたって数々企画検討を重ねて、懇美の運びに至った経緯を含めて

挨拶をし、併せて各クラスの幹事15名余が、各々の役割や分担とともに紹介された。

卒業後50年、われらが今日あるのも各担任の先生方、多数多くの方々にご指導を受け、支えられてきたおかげであり、ご来賓として本会にお招きした方々が10指に余るほどであったが、如何せん歳月の移り変わりとともに、夫々にお亡くなりになった方、ご高齢もしくは病氣療養中で、ご出席がなわず、ご来賓は3名の方に止まった。

ご来賓の方々に夫々次のような主旨のご挨拶を賜った。

●桐朋学園校長 小柳敏志先生

自身21期の同窓生である。桐朋の卒業生はすでに1万8000人ほどになり、各方面で活躍されているのは、ご同慶の至りである。

桐朋のよき校風は依然として変わってはいないし、今後もそうあってほしいと願っている。在校生もお互いに刺激し合って文武両道で頑張っており、校長としては外部からの評判を聞いてみたい気がする。

11期生の皆さまも、大先輩として今後とも桐朋学園を、また桐朋生を温かく見守ってほしい。

●桐朋学園同窓会 会長 並木敏孝様

(11期生 並木伸道君の令弟で、14期)同窓会は卒業生の親睦を図ること、母校桐朋の応援団であること認識している。昨年、桐朋学園創立60周年の記念同窓会を女子校とともに開催したところであるが、卒業生の年代の幅が大きくなり、

各層の価値観が一致しなくなってきたのが悩みである。

最近、特に若いそのの発言に耳を傾けるように心がけており、パソコンを介して先輩の知恵をコウハイに伝えていくことも考えている。11期の先輩諸兄も同窓会発展のために応援していただきたい。

●恩師 水沢竜夫先生

11期生担任の大長老である小林寿雄先生(96歳)がご高齢でお見えにならないのは寂しくもありまことに残念である。

自分は本来10期生の担任であるが、11期生には授業を持ったことがあり、この他親しみを保持している。自分が担任の代表のように感じている。

学校は中・高わずか6年。それに比べて、その後50年も経ったのがと、諸君の顔を見て感慨が湧く。

自身85歳、いろいろな身体をこわしたりもしたが、何とか元気でゴルフを続けており、三途の川も歩いて渡りたいと思いつつ頑張っている。諸君も益々元気でいてほしい。

ここで、本日配付されている資料について竹下幹事長より説明があり、特に本日欠席されている原久島在住の日吉眞夫君が編集発行人として刊行している冊子「生命の島」今春号と小林寿雄先生が長年にわたってチャレンジし踏破されてきた、各種の「歩こう会」の記念パッチや参加証が提供されている旨の披露があった。併せて両名様からの「皆によるしく」のご伝言が伝えられた。

続いて「乾杯」に入り、司会者浜田君

の指名により、参加者を代表して中島信一君（現府中市副市長）の発声で元気に乾杯をおこない、懇談に移った。

会場内数ヶ所に配置された各々のテールを囲んで歓談が続き、中には胸の名札を見て、昔の面影が浮かんでくる、まさに50年ぶりに再会した人も何人かいて、あちこちで握手をしたり、肩を抱き合う交歓のシーンが見られた。

しばし歓談の後、恒例の写真撮影をおこない、柳澤知男君（市内や会社OBの写真同好会員）がこれにあたった。

出席者多数のため、クラス単位での撮影となり、A組から順次おこなわれた。A組13名、B組14名、C組20名、D組23名であった。

2部としての後半に入り、司会者が川野文夫君に替わった。川野君持ち前のソフトさで行き届いた目配りのよい司会により、会は滞りなく進行した。

まず、寺島晃君がパソコンを駆使して編集した「思い出の写真集」が、同君の解説により、フラッシュバックして映し出され、一同それぞれに青春の1コマ1コマを懐かしく思い出しながら、感慨一入の様子であった。編集

に当たっては、「桐朋同窓会事務局」の中島さんからの資料、情報のご協力、また映写の器具「プロジェクト」などは20期の齋藤さんからお借りしたりで、ご協力いただいたそうである。



この写真集は、追って本日より撮影した写真などを組み込み再編集したものを「CD-ROM」の形にして、出席者全員に送付されることになっている。

続いて、小倉一迪君の手品が披露された。4年前の同期会の時に比べて、素人目にも格段の進歩が伺え、まさにプロ級の腕前に驚きの声もあがり、拍手喝采であった。

このあと、司会者川野君の指名によって以下の有志による近況報告がなされた。

まず、広島県の呉市から駆けつけた杉野栄一君（小学校同級の安藤護郎君、新井隆夫君も壇上に）、千葉から出席の万木尚一君、西沢毅一君、西沢君は大病から復帰してこのように皆に会うことのできる喜びを語って満場の拍手を浴びた。

さらに三多摩を代表して島津警君（日野）、熊沢（旧姓小暮）清君（八王子）、体育会系陸上の鴨下礼二郎君、体操の中出正明君、葛飾から久々出席の医師吉川昌一君、「野鳥の会」に携わる福本順吉君そして同好会として古く伝統のある「イレブン・ポロニアズ」が発展した「新生イレブン」を代表して、同会副会長の永井清嗣君（会長梅根敏志君欠席のため）たちが、次々に登壇し、盛り上げた。

こうするうちに会も終盤に入り、しばし歓談の後、全員で懐かしく校歌を斉唱した。皆大きな声で思いきり歌っていた。安藤護郎君がたまたま飛び入りで指揮しリードした。

かくして、会の盛り上がりの余韻が漂う中、予定の時間16時30分を幾分早めて桐朋高校同窓会11期評議員の森田真生君が「中締め」の挨拶をおこなった。

来年は、我々11期生が「古希」を迎えること、また3年後には小林寿雄先生の「百寿の慶事」が控えていることを述べ、これらを契機として次回の同窓会がいずれ開かれんことを示唆したものであった。

森田真生君の中締めの挨拶が終わるやいなや、桐のマークを背に付けた赤いブルゾンの安藤護郎君が再度飛び入りして「三本締めをおこない、またたく間に「本締め」となった。

最後に司会の川野文夫君から「感謝の意を込めた閉会の辞」が述べられ、散会となった。

追記：冗長文か、あるいは欠落箇所もあると思いますが、出席された皆さまの記憶と、ご判断にお任せして当日を思い出

してください。幸いです。最後に：この度は、われわれ有志16名の幹事によって手作りの企画による「同期会」を、案内いたし、皆さまのご協力で「盛大な会」を開催できましたこと、心から感謝と御礼を申し上げます。いろいろ至らぬ点もあったでしょうが、同期の仲間ということに免じてお許しください。次回はまだお互い元気なで、再会いたしましょう。

幹事一同 吉田晴彦

卒業50年記念12期生の集い開催
母校見学で始めて知る、
上履き不要の今の桐朋

12期

我々12期生は、昭和33年3月桐朋学園を卒業し、今年には50年を迎えた。当時の卒業生は221名、校舎は木造で緑の多い敷地の中に建てられていた。

三角屋根の国立駅舎、駅から真っ直ぐ南に伸びる大学通りは舗装されていない埃の立つ砂利道であった。

学校帰りにそば屋に立ち入ることも禁止され、帽子の着用、服装は詰め襟の学生服、その帽子や服の襟にきちんと校章が付いているか、学校側は無論、生徒会でも目を光らせていた。

さて、今年は記念すべき年の集まりということで、昨年の秋頃から発起人（幹事）が数人で集まり検討を重ねた結果、先輩の11期生、森田真生さんたちが会場として使用した国立駅徒歩2分の関谷ビル7階ホールを会場とすることとした。国立に集まるのであれば、母校の見学

会を実施しようという案が出て、この計画に従って準備を進めた。

記念の集まりは午後5時から、母校見学を希望する者は学校集合午後3時とした。見学者は20名で、学校側にお願ひし、高校部長巻瀧先生を通し、当日は高校教務主任の小島智之先生が案内をしてくださった。

大変立派な「桐朋学園学校案内」の冊子も配布され、建物の2階にある図書館、プラネタリウム室、コンピュータ室、階段教室、外はグラウンド、御屋林を見て回った。

建物に入る時「土足でいいのか」とか「大学とまったく同じ建物だ、すごいなあ、昔とは違うなあ」という声を耳にした。また、グラウンドでは当時の体育の授業や運動会での思い出を語る者もいたが、「昔より狭く感じる」として御屋林では「この林の中に土俵を作り相撲を取った覚えがある」といった話をしていた者がいた。

約30〜40分ぐらいで見学を終え、案内の先生に礼を述べ、我々は駅前の会場へと向かった。

記念の集まりの会場は、午後5時より受付を開始した。懐かしい顔の旧友が次々と受付を済ませた。自分の名前を書いた名札を胸に貼り付ける簡易な名札を準備した。名前を見ないと誰であるか分からない者、一目で名前を言い当てることのできる者もいて、再会の喜びを感じるとともに、個人差があることを痛感した。

田中勲君の司会で進められ、まず物故

者である飛岡、西村、鈴木、宮本先生や、同期25名に黙祷し、ご冥福を祈った。

続いて私から開会の挨拶、出席者は来賓の水沢竜夫先生、同窓会長の並木敏孝さんを含め47名であることを報告した。また、母校見学の様子や学校の現状、同窓会の会員数とその活動の実態を述べ、最後に今後の同期会のあり方について説明した。

乾杯、挨拶と水沢先生が元氣な姿で皆の前に現れた。先生は1922年生まれ、今年86歳とのこと、桐朋学園への着任は昭和24年とのことであった。元氣であることの秘訣は「よく歩くこと」「ゴルフを楽しむこと」「昼寝をする」といふであると話されていた。

先生は昔私たちに初めて接する時「お前は兄貴の弟か？」と問いかげられた。実にユニークで素朴であり、私たちの緊張を和らげてくださった問いかげであったことを思い出した。

並木会長からの挨拶では、我々が卒業した翌年、当時の皇太子であった今の天皇がご成婚されたこと等、当時の社会状況や、自分の同期（14期）の卒業生の中には、今社会で活躍している有名人が何人かいて、我が桐朋学園の名を高めているという話をされていた。

卒業以来何度かこのような集まりを開催したが、出席できず、今回初めて出席した者や、京都からははるばるかけつけてくれた者もいて、発起人（幹事）の一人として嬉しかった。

席を立ち談笑する者、お互いに握手を交わし再会を喜ぶ者、皆樂しそうであり、

年は重ねたが、何となく50年前の教室で語らうの場を思い出した。

内藤紘君からの事務連絡や、締めめの言葉で約2時間30分の集いはあっという間に終わってしまった。

帰り際には、会を開いた発起人（幹事）への感謝の言葉を残す者や、友達との再会ができたことへの喜びを表す者が何人かいた。また次回（来年）には、古希の会を開いてほしいといった、早くも次の集いを期待している者、「旅行もいいな」という者もいて、皆名残惜しうに秋の国立の街へと会場をあとにした。

（加藤裕二）

30期同期会

Hart Century Anniversary Party

開催日 20年6月8日(日曜日)

場所 ビストロロイード

参加者 56人

30期

30期は、4月1日で全員50歳になったのを記念した集まりを、桐朋祭の期間と併せて国立で開催しました。ここまでは建

て前で、昨年開催した同期会の感動をもう一度と言う事で、昨年同様、飲み会の席上で桐朋生のノリで決まり、開催する為の名目として『生誕半世紀記念の会』となったのが真相です。

桐朋祭開催日に併せた事で、卒業後初めて桐朋



祭の見学をした方々も多く、中には卒業後初めて母校を訪問した方や、楽しかった桐朋時代の思い出に浸り、こちらの開始時刻に遅れてくる方もいました。同窓会活動報告を兼ねて濱谷君の乾杯にて開会し、校歌・応援歌斉唱で終わり、盛況であった事は言うまでもありません。当初、日曜日開催であれば、多くの方々に参加して戴けると考えておりましたが、公私に亘り、多忙な年齢で、日程調整は平日の方がつくとか、転勤や出張で都合がつかない方々が多く、それぞれ重責を担い、活躍されていることを痛感させられました。

同期会を契機に、クラス会の開催や参加できなかった人と個々に連絡を取り合う等々、それなりの貢献は出来ているのではないかと感じております。

卒業から年数が経つにつれ、桐朋時代の思い出は印象深い事柄（自分にとって都合のいい事とも言いますが）しか残っておらず、その殆んどは同期の間でしか通じない話題となり、年齢に応じた風貌はしていても、三分もすれば、それぞ

れの眼は、知らず知らずのうちに桐朋時代の眼に戻っているのです。

学校教育に関し

て社会問題化されていますが、卒業してから30年以上経っても、その当時の話題を楽しく語り合うことが出来る仲間が集える礎こそが桐朋への愛着であり、その愛着心が桐朋の伝統となっていくのではないかと思います。

次の同期会が何時開催されるかは不明ですが、集まって下さる方々の心のオアシスである以上、継続させていかなければなりません。(四宮正憲)

32期同期会

先生、僕らも大人になったでしょう？

32期

卒業して30年が経った。十年一昔と言ふなら、木遭の講堂で西尾校長から卒業証書を受領したの、三昔の前のことである。その間、進学、就職、結婚と人生の節目を経験し、子供達はちょうどあの頃の私達と同年代になっている。もしかすると私達は、あの頃の恩師の年齢を越えてしまった。そういう歳になっているのである。

3月1日(土)に、卒業30年を記念して吉祥寺の第一ホテルにて同期会を開催した。会には、金山先生、井波先生、岡部先生、綿引先生、榎本先生、善淵先生に参列いただいた(写真左から)。参集した同級生は約80名。10年前に桐朋の食堂で同期会を設けて以来、じつに10年ぶりの再会となった。

残念ながら、渡辺先生と平井先生は所用などでお出でいただけなかったが、先生方は皆、桐朋の時のバイタリティを持ちながら、お元気でいらっした。金山先生は目を少し悪くされたと言い

ながら、機会があれば教える子達と会うことを楽しみにしているという。綿引先生と井波先生はサイクリングに興じ、遠くツーリングにも出かけるというから、お



そらく私達以上の体力をお持ちなのだろう。岡部先生は、地元の様々な会に参加しながら地域貢献に精を出し、馴染みの店に足繁く通っては人生を謳歌している。

30周年記



動だけでなく有名ミュージシャンのバックなどで活躍中だ。桐朋祭の時にはギ

榎本先生は、いかにお金をかけずに人生を楽しむのが大切と、卓球と川釣りを趣味にしているという。32期のクラス担任をいただいた先生方の中で、今も桐朋で教鞭を執られているのは、善淵先生だけである。その善淵先生も、高校部長として桐朋の教育をリードされている。先生方のお話を伺うと、今も人生の訓をいただける気がする。人生を楽しむなさい、前向きに生きなさい、何事にも積極的にと、ごく当たり前のことだけれど、なかなか実践できないことを実行され、私達はそれに触発されるのだ。

「先生、僕らも大人になったでしょう。先生の話をごんごんに静かに聞けるようになりまして」と司会者が言った。私達は笑ったが、先生方は微笑んだ。それは、自戒とも言える笑いと、安堵感や達成感による微笑みなのだろう。

大人になった私達の代表として、サクソ奏者として活躍する三四朗こと、藤本三四朗君に演奏してもらった。桐朋を卒業後にアメリカのパークレー音楽院に留学し、ギターからサクソに転じてから、いま

ターでロックを興じていたが、いまはジャズやフュージョン系を主なジャンルにしている。オリジナル曲を含めた彼の演奏に皆が聞き入ったことは言うまでもない。特に、東京雲天で作曲の教鞭を執る古川君の指揮の下で校歌を斉唱したとき、三四朗君は即興でサクソスを吹き、私達は2人のアフロと一緒に効果歌を奏する味わうことができた。

会が終わったあとも、ほとんどが次会へと移り、その場で全員から近況報告を述べてもらった。みな、同じように、笑い、泣き、喜び、悲しみながら生きていく。昔と変わらないまま大人になった私達が集まった。

「こうして集まるのも、桐朋が好きだからだよ」と、某君がボツリと呟いた。それを聞いた隣の者が、「いい仲間だったよ」と言った。「今ね、改めて先生達の授業が頭に浮かぶ。僕らの子供達が、桐朋の先生の授業を受けたらどうだろうかって思う」「僕らが桐朋で高校生活を送れたのは誇りかな」

きっと、同期会に参加したみんなの共通した想いなのだと思う。(小坂義生)

37期

37期F組クラス会
森田先生の退官を祝って開催

森田郁郎先生が2008年3月で退官されました。森田先生は野球部監督であり、ホームルームでの話も野球の話題が多かった印象です。「バッティングはレベルインクが理想だが、そのためには若干上から叩いてはじめてレベルの軌道になる」と

いう内容の話をされていた記憶がありません。野球部でない私も妙に納得したものでした。

桐朋はなかなかの進学校（表面上は）でしたが、森田先生から勉強の話を聞いた記憶はありません。あるとき御自身の同級生との待ち合わせの際の話をされ、友人に「お前は時間にルーズだけど、それは直した方がいいぞ」とみないな説教をされて、私も生徒徒には訓話的に親しき仲にも礼儀あり、苦言を呈してくれる友人を持つことは大事であり良い事だ、といったものでした。

私だけかも知れませんが、当時の高校3年生に対するいわゆる学校の先生というものは、物凄く正しい存在という認識でしたが、なんだ、先生も人間なんだ（今にして思えば当たり前ですが）と思えて、先生との垣根がとれた瞬間だったのをよく覚えていますが、卒業後の森田先生率いる桐朋高校野球部の活躍は新聞等でよく目にしまし

たので遠方に居住するものには大変励みにもなり嬉しかったです。（21世紀枠は惜しかったですね）

7月12日に安井・斎藤（総）・毛塚・吉沢君が幹事をして下さり、立川パレスホテルにて、森田郁郎先生退官慰労会ならびに第1回37期F組同窓会が開催されました。



土曜日の仕事が思ったより長引き（私立の大学病院なので土曜日でも目一杯働かされます）、1時間遅刻で会場入りし扉を開けると「誰だ？誰だ？」の声、喋ると「土屋かー！」声は変わらんみたいですが、ちなみに何故誰だ？になったかというのを覚えていないのはなく、ここ数年坊主頭にしてているせい

と思われまふ。というのは25年振りなれど、皆会った瞬間に高校時代に帰りすぐ誰であるか理解できていましたから。

近況報告も大分進行しています、私が聞けた方を一部紹介しますと、大槻君がビッグムーンという会社を経営してい

る（うわべたべたやん）、吉沢君が高校時代の紀中君達との武勇伝から大学アメフトで甲子園ボウルに出演（レギュラー）、諸岡君は授業をさぼった理由を森田先生に聞かれた際に思わず「海が見たかったんです」と当時の偽りを暴露、上平君は森田先生の野球部での行状を全て話していました（ここでは書きません）。

引き続きの二次会では猿史（伊藤聡君）が登場し更に盛り上がりました。これからも同一幹事のもと（幹事様、有難うございます）定期的にクラス会が開催されることが決まり皆帰宅の途につきました。森田先生は高校野球連盟の副会長に就任され、クラスの皆も頑張っていることが分かり、43歳なれど、自分もまだまだこれからだと思えた時間でした。最後になりますが森田先生、教職お疲れ様でした。高野連にても、ますます御活躍されることを願っております。

（土屋典生）

42期同期会開催 私たちの基礎は桐朋を再認識

10月25日（土）、桐朋学園の食堂にて第42期同期会を開催しました。私たちは42期が卒業したのは1988年。今年はずいぶん卒業から20年の節目の年にあたります。前回の同期会は10年前でした。10年に1回は律儀に学年幹事の役割を果たしている

ようですが、実は私は節目の年だということすっかり忘れていました。それを思い出させてくれたのは、42期代表で評議員をつとめる栗原君や栗原君に同期会

開催を持ちかけてくれた荒川君、小川君などバレー部を中心としたメンバーでした。

私たち42期は30代後半。仕事や家庭の事情などで同期会に参加するのは一番難しい「年頃」とも言えます。果たして何人が参加してくれるかと不安に感じてい



ましたが、みな声をかけあってくれた結果、当日の参加者は予想を上回る56人でした。10年前は40人台だったので上々といえます。お世話になった先生方は、

中学3年までクラス担任をしていた。た山下明先生をはじめ、熊谷孝康先生、坂本剛先生、佐藤洋先生、天野康幸先生、杉山伸一先生、村松春彦先生、衛藤浩一先生に出席していただきました。高澤健三先生は、研究会の日程と重なったため残念ながら欠席となりましたが、メッセージを寄せていただきました。

先生方のごあいさつを聞いてみると、まるで授業を受けているような錯覚に陥り、懐かしさがこみあげてきました。また、今回は参加者全員から近況を話してもらいました。

先生方とは違って、私たちは自分も含めて当時の初々しい面影はほとんど無くなってしまっていますが、話を聞いていくうちに不思議なもので「あいつとはこんなことがあった」と、この20年間全く思い出さなかったことがいろいろ頭に浮かんできます。先輩方には「10年早い」と言われそうですが「人間いくつになっても変わらない。私たちの基礎は桐朋での6年(3年)で創られた」ということをあらためて感じました。

1人1人の近況は様々でしたが、みなそれぞれ自分の居場所ががんばっているということがよくわかりました。自分もがんばろうと明日へのパワーをもらうことも同期会のいいところかもしれません。先生方に記念品を贈呈した後、最後に校歌を斉唱しました。会は4時間近くにわたりましたが、それでもみな話し足りたのかなかなか散会となりません。残った有志で大学通りの店に場所を移して夜遅くまで同期会は続きました。

お忙しいなか、出席していただいた先生方には厚くお礼を申し上げます。村松先生には食事との交渉などさまざまな点でご尽力をいただきました。この場を借りて改めてお礼を申し上げます。

今回は10年後かとみなに聞かれましたが、全体はともかくグループ単位でもっと頻りに会を持っていいかもしれません。山口君には参加者のメーリングリストを作ってもらいましたのでそれなども活用して連絡を取り合ってくださいと思います。(堀部敏男)

野球部OB会
森田先生、お世話になりました



2008年3月2日(日)、
「森田郁朗先生退任慰労会」が
野球部OB会の主催により、
ザ・クレセントホテル立川でおこなわれま
した。

森田先生が3月末をもって定年を迎えられるということで、何としても会を開かねばという話が前年夏、OBの飲み会の場で持ち上がりました。「やはり早稲田大学在学中からお世話になり、桐朋の教師なり立てて、熱く指導していただいた25期・26期を中心にする」という運びになり、これに学年担当でもあった30期・33期のメンバーに世話人に加わってもらい、準備会を重ね、この日を迎えました。

当日は4期から61期まで総勢130名を超える盛大な会となりました。冒頭、川庄OB会長のスピーチが3分の予定が、30分近く(戦争中の話までタイムスリップ)になるというハプニングもありましたが、各期の集合写真像を見ながら、森田先生得難の辛口コメントも加わり、とても和やかな雰囲気の中で進行することができました。何よりも一緒に招待させていただいた奥様に喜んでいただけたことがうれしい限りです。

1948年(昭和23年)創部、半世紀以上の歴史と伝統のある野球部ですが、安定した実績を残せるようになったのは、森田先生が赴任した1969年以降です。森田野球(万馬券当てのノウハウを野球に生かした大物食い野球)に

森田郁朗先生 退任慰労会



懸せられて部員も増え始め、中高一貫体制が確立しはじめてからです。この15年あまりは監督を田中先生に譲り、部長職にあられましたが、桐朋野球部への思い入れは誰よりも強かったです。

多分心残りなのは5年前の新人戦であの日大三校を破り、「21世紀枠全国9校」に選ばれながら、甲子園出場を果たせなかったことだと思えます。特別なスカウティングをせずに(できない)、中高一貫体制を守りながら、文武両道の精神でいかに短い練習時間の中で、クレバーな野球を展開し、大物食いをするかという森田野球は、これからも桐朋の伝統として受け継がれていくものと信じます。

森田先生は、現在も東京都高野連の理事長職にあり、2008年夏には全国高野連表彰を受けられました。どうぞいつまでもお元気で活躍ください。

(真野彰 25期)

森田郁朗先生 送



5期生の喜寿を祝う会 開催予告

平成14年11月7日、国立市・割烹「なつめ」で「勝手に古希を祝う会」を開催してより、はや6年の年月が経過いたしました。この間、同窓会創立60周年記念大会などもあり、この会への参加優先のため、5期の会は控えておりました。

古希の会で提案された記念誌の作成は皆さまより多くの原稿をいただき、岡田・中村（露）・熊谷・貝守により、立派な「ごきのごき」が完成し、瞬く間に完売し好評でありました。

さて、平成19年は、われわれは喜寿を迎えることとなります。

日頃は一堂に会する機会も少ないので、これを機会に「喜寿を祝う会」を企画したいと考えております。時期は平成21年9月または10月、場所は国立市、14期・佐藤氏経営の「あんず亭」（名付け親は嵐山光三郎氏）を候補としています。（料亭よし・環境よし）

恩師も他界され、同期の仲間だけの会になりますが、健康に留意し、万障繰り合わせ出席できますよう予定しておいてください。大いに盛り上がりましょう。

平成21年8月頃案内をいたしますので、楽しみにしててください。なお、当日のイベント等アイデアをお持ちの方は遠慮なくご連絡ください。

（貝守玄三・熊谷一昭）

27期同期会 開催告知

名称：桐朋高校27期全クラス同期会

55歳を祝う会（仮称）

日時：2009年（平成21年）6月6日（土曜日）

場所：ハイアットリージェンシー東京「平安の間」

新宿区西新宿2-7-2 電話：03-3348-1234

http://www.hyattregencytokyo.com/index_pc.html

開演：午後5:00～午後7:30頃まで

受付：午後4:30から

会費：1万円

2008年主なクラブ活動報告

《高校》

サッカー	都大会 T3 U-18 出場 全国高校サッカー選手権 東京都7地区	▶準優勝
体操	東京都高校男子体操競技夏期夏季大会	▶2-F 石田敦士 個人総合4位 ▶2-F 伊藤亨 鞍馬4位 平行棒6位
陸上競技	東京都高校陸上競技選手権 東京都高校新人陸上競技選手権	▶2-D 丸山弘貴 三段跳2位 13m91（南関東大会出場） ▶2-A 上野隆治 棒高跳1位 4m35（南関東大会出場） ▶1-E 和泉理久 走高跳6位 1m88（南関東大会出場） ▶2-E 渡辺敬康 棒高跳7位 3m80 ▶男子フィールドの部 総合4位 ▶2-D 丸山弘貴 三段跳1位 14m41（関東大会出場） 400mH 2位 55秒97 ▶2-A 上野隆治 棒高跳2位 4m20（関東大会出場） ▶2-D 上法大樹 棒高跳6位 3m90 ▶1-C 佐伯祐樹 400m 8位 51秒63 ▶4×400mR 4位 ▶男子総合5位
テニス	東京都総合体育大会	▶3-A 久保慶一郎・2-B 藤村匠 組 5位（インターハイ出場）
ラグビー	東京都秋季大会出場	
柔道	都大会出場	▶1-C 今城哉裕 1-E 山田達也 1-A 敷田年申 1-G 浦浦岳
将棋	全国高校将棋新人戦大会東京地区予選	▶1-E 酒井達拓 A級5位 ▶1-F 坂本優介 B級1位
囲碁	都団体戦第2ブロック	▶優勝 2-F 島田豪 1-G 和田歩 1-C 齋藤啓生（関東大会出場）
バレー	秋季大会Dブロック	▶3位 都ベスト16
コンピュータ	パソコン甲子園全国大会出場	▶3-D 古賀理 1-B 比留川雄介
地学	モデルロケット全国大会定着地競技出場	
ヨット	ジュニアオリンピックカップ2008 国体少年男子シーホッパー	▶3-E 中村光希 5位 ▶3-E 中村光希 出場

《中学》

サッカー	東京都中学総合体育大会兼第61回東京都中学サッカー選手権	▶ベスト8
バスケット	10地区新人大会	▶準優勝 都大会出場
水泳	全国中学校水泳大会	▶3-2 野崎雄大 200m 背泳6位
体操	東京都中学校体操競技選手権	▶団体総合7位 3-4 穂積智明 3-6 柿沼峻介 ▶2-1 田柳俊和 2-5 藤井将大 ▶2-5 藤井将大 鉄棒1位 個人総合2位
テニス	多摩地区中学校体操競技大会 10ブロック2年生大会	▶2-4 中山知樹・2-1 五島孝幸 組 優勝 ▶2-1 田畑達人・2-6 冨浦浩太 組 ベスト8 ▶ベスト16 ▶2-5 山崎晋太郎 2-1 藤原誠尚 ▶2-4 奥隅慶太郎 1-4 紅林勇哉
卓球	東京都中学春季卓球大会	▶団体3位 ▶10ブロック大会 団体優勝
将棋	八中学将棋リーグ戦	▶団体2位 ▶個人賞 3-2 乙田泰志 3-3 岸本昂大 2-2 菊池和平

ゴルフ大会

春のゴルフ大会成績表

平成20年(2008)5月5日 東京バーディクラブにて

順位	氏名	期	グロス	ネット
堂優 勝	1 良原 海平	26	86	70.4
堂準 優 勝	2 門馬 孝直	高2	98	70.4
	3 飯塚 博久	26	95	71.0
	4 二子石信介	26	82	71.2
堂シニア優勝	5 厚東 健彦	8	87	71.4
堂シニア準優勝	6 周防 光成	17	93	71.4
	7 平野 英夫	13	85	71.8
堂ベストグロス	8 山崎 智里	26	71	72.2
	9 関山 龍一	17	87	72.6
	10 渡辺 一訓	27	80	72.8
	11 大西 一雄	26	89	73.4
	12 山本 克	17	95	73.4
	13 岡澤 英雄	26	91	74.2
	14 河西 吾郎	26	84	74.4
	15 下田 雅大	26	83	74.6
	16 上西 紀夫	20	82	74.8
	17 萩田 博司	9	100	74.8
	18 中村 芳夫	15	93	75.0
	19 渡辺 真男	20	79	75.4
	20 並木 敏孝	14	102	75.6
	21 橋本 宏	13	98	76.4
	22 酒井 弘	21	85	76.6
	23 島野 浩二	20	96	76.8
	24 横田 浩介	15	89	77.0
	25 横山 一男	16	89	77.0
	26 滝 健	17	88	77.2
	27 若崎 茂	19	94	77.2
	28 北村 育雄	21	94	77.2
	29 渡辺 邦祐	17	98	77.6
	30 小俣 明夫	19	98	77.6
	31 門馬 光直	32	90	78.0
	32 熊井 直人	20	95	78.2

順位	氏名	期	グロス	ネット
33	関谷 巖	27	107	78.2
34	村本 豊彦	28	94	78.4
35	岡 伸二	26	100	78.4
36	河野 啓	13	99	78.6
37	後藤 芳則	27	97	79.0
38	安西 敬夫	20	96	79.2
39	近藤 裕幸	27	102	79.2
40	和中 信男	15	101	79.4
41	丸山 和博	20	101	79.4
42	中村 勇	17	94	79.6
43	杉本 興治	17	93	79.8
44	齊藤 進一	26	92	80.0
45	黒沢 純夫	31	104	80.0
46	古川 晴海	20	110	80.0
47	桜井 一	26	105	81.0
48	比留間伸一	27	108	81.6
49	柴田由起夫	26	100	82.0
50	竹沢 信雄	20	104	82.4
51	門下 和夫	31	116	82.4
52	細谷 充堂	13	107	83.0
53	南口 誠直	26	119	83.0
54	太田 昌保	13	111	83.4
55	瀧波 重徳	21	111	83.4
56	泉 好修	26	104	83.6
57	阿部 秀道	26	100	84.4
58	田中 院司	13	99	84.6
59	飛岡 文人	13	116	84.8
60	森田 郁朗	20	103	85.0
61	真鍋 典久	9	101	85.4
62	藤田 耀久	31	123	87.0
63	田和 健次	26	124	88.0
64	鷺見 英一	21	122	88.4

告知

第18回 囲碁大会

2009年2月1日、例年通り「秀哉」にて囲碁大会を開催します。

参加ご希望、または興味のある方は、同窓会事務局までお問い合わせください。

同窓会事務局 tel:042-576-6162
Fax:042-580-5152
Mail:info@toho-dousoukai.jp

※歴代の優勝者(敬称略)

鈴木信一郎(2期/第9回)、貝守玄三(5期/第10回・第12回)、
天正明(6期/第14回)、小俣光夫(10期/第1回・第3回)、
大貫英隆(10期/第6回・第7回)、高村靖夫(10期/第11回)
梨羽道夫(18期/第4回・第15回)、中島克安(19期/第8回)、
藤瀬洋(21期/第2回)、福嶋常光(21期/第5回)、細谷
和宏(41期/第16回)、奥津聡介(54期/第13回・第17回)

囲碁大会

第17回

平成20年(2008)2月3日 於:秀哉

順位	氏名	期	段・級
	山本 達郎	2	初段
	貝守 玄三	5	3段
	中村 齋	5	4段
	浜田 省三	5	2級
	山北 徹	5	初段
	山縣 文雄	6	6級
	中野 克俊	8	2級
	片田江恭輝	10	4段
	小俣 光夫	10	8段
	永井 清嗣	11	4段
	遠山 国彦	11	5段
	浜田 博	11	3段
	池上 顕一	18	初段
	梨羽 道夫	18	8段
	串田 隆保	18	初段
	岡本 一彦	19	3段
堂2	福嶋 常光	21	4段
	細谷 和宏	41	7段
堂3	山根 敬弘	52	3段
堂1優勝	奥津 聡介	54	5段

桐朋を 去る にあたって

野球と私



森田 郁郎先生
1970年4月より
2008年3月勤務

高校野球の名監督に聞きました。甲子園に出場させるには、投手力ですか、守備力ですか、それとも攻撃力を重視した指導をされるのですか。

甲子園への近道は、人間性を養うことです。人への優しさ、暖かさ、思い遣りを養うことです。そして地道に努力するように指導することです。と答えました。私が桐朋高校野球部員だった頃は、3



中村 至先生
1973年4月より
2008年3月勤務

「独居老人の近況報告」

年間のすべての大会で一回戦負けという時代でした。そのことがたいへん悔しくて、勝利の喜びを一回だけでも感じさせてやりたい、という思いのみで監督を引き受けて、厳しいばかりの指導をしてきたように思っております。

3月2日、野球部OB会で退職の会を開いて頂きました。昔の部員達から昨年の卒業生まで、130名もが集まり、皆、社会人として立派に活躍しておりました。

桐朋生は叱られることに慣れていませんが、何事にも本気で向かっていくと本気になってことに立ち向かってきてくれるようです。真の甲子園は無理だったのですが、心の甲子園へは彼らの中でしっかりと出場できていたように感じました。ありがとうございました。

夕焼けに 大きな声で 別れけり

「退職したら何をされるのですか?」とよく聞かれました。「しっかりと生活します」と、その都度答えてきました。

実際今までは、会議等で遅くなる日の夕食は外食と決めていたのですが、それがなくなり、毎日自炊ということになりました。もともと料理は好きな方ですが、キッチンに立つ時間が長くなりました。買い物の回数もぐっと増え、授業のあとは、両手の買い物袋を食材でいっぱいにして(赤い飲み物が重いです)帰宅します。

夏に、数年間使用したサイクロン掃除機を新しい機種に買い換えました。そのパワーアップと、一段と過激さを増したデザインに感激。対して埃もないのに、2LDKの床を頻繁に掃除しています。相変わらず、クルマ、テレビ、パソコン、配偶者なしの生活を楽しんでます。

今や骨董品とも言える愛用のローライフレックスにもしばらく触っていませんでした。また心に映る後継を探して歩き回るつもりです。冷蔵庫のドアポケットでロールフィルムが期限切れになっているのは何とも情けない。

桐朋には週4日、講師として顔を出させてもらっています。気持ちの上で余裕ができたせいもあって、専任の時とはまた違った角度から生徒に接することができそうです。緊張感を忘れることなく、授業を大切にしていきたいと思っています。

本当に幸せでした



坂本 剛先生
1970年4月より
2008年3月勤務

桐朋の名前は、私が中学の時から馴染み深いものでした。近くに住んでいたのに、大学通りや学園前の道路、周辺に以前あった畑は、日常生活で始終、歩いたり遊んでいたところでした。だから、登下校中の生徒もよく見かけました。中3の受験時には、受験対象としてよく話題に上がったものです。縁がこんもり茂って、とても魅力的でした。

大学4年の時、桐朋の生物教員募集を知ったときは嬉しくなりました。幸いにも採用していただき、先輩の先生方、特に中西先生や、今は亡き野村先生には本当に感謝しております。

桐朋の34年間には、楽しかったことや後悔の残ったことなど色々な出来事がありました。多くの生徒と接することができたのは、本当に幸せでした。

今暫く、別の形で桐朋にお世話になりますが、一区切りが来たことはホッとするとともに、とても寂しい気持ちです。長い間お世話になりました。ありがとうございました。

事業・会計報告

2007(平成19)年度事業報告

〔総務部〕

1. 会議

①代表総会 4月22日

②理事会 4月12日 4月22日 6月9日 11月6日 11月15日 1月18日 3月1日

③評議員会 11月15日 1月18日 3月1日

1日

2. 表彰 11件

〔事業部〕

1. 学園への援助

①桐朋祭実行委員会への援助

②クラブ活動支援

陸上部 全国大会、関東大会出場

スキー部 全国大会、関東大会出場

水泳部 全国大会出場

バレー部 関東大会出場

テニス部 関東大会出場

音楽部 定期演奏会、全国大会出場

将棋部 囲碁班 全国大会、関東大会出場

出場 地学部 モデルロケット全国大会出場

ESSスピーチコンテスト優勝

2. 桐朋祭への参加(6月8日(金)～10日(日))

①同窓会休養室の設置

②ホームカミングデー 6月10日(日) 31期～35期 51期～55期

参加者 1,855名(合計記載し左の方のみ)

③餅つき大会

3. ゴルフ大会

①第19回大会 19年5月6日コース

東京バーディクラブ 参加者:56名

4. 囲碁大会(第17回)20年2月3日(日)

囲碁クラブ:秀哉 参加者:20名

5. 新入会員歓迎会 20年3月1日

6. 同期会援助 7期、11期、20期、31期

〔名簿委員会〕

名簿管理についてアンケート実施

〔広報委員会〕

会報30号の発行

2008(平成20)年度事業報告

〔総務部〕

1. 会議

①代表総会 ②理事会 ③評議員会

2. 評議員会予定(7月中旬・10月中旬・1月中旬・3月7日)

〔事業部〕

1. 学園への援助

桐朋祭実行委員会への援助

クラブ活動支援

2. 桐朋祭への参加 20年6月7日(土)～9日(月)

3. ゴルフ大会(第20回) 20年5月5日(祝)

4. 囲碁大会(第18回)21年2月1日(日)

5. 新入会員歓迎会 21年3月7日(土)

6. 同期会援助

〔名簿委員会〕

会員動向調査

〔広報委員会〕

会報31号の発行

〔丁委員会〕

ホームページ改訂準備作業

平成19年度 桐朋学園同窓会収支決算報告

(平成19年4月1日 至平成20年3月31日)

項目	[単位:円]		
	19年度予算 (A)	19年度決算 (B)	比較 (A)-(B)
入会金	1,908,000	1,908,000	0
会費	5,088,000	5,088,000	0
60周年記念大会より返済	400,015	0	400,015
雑収入	0	5,723	△ 5,723
当期収入合計①	7,396,015	7,001,723	394,292
前期繰越	1,991,098	1,991,098	0
収入合計②	9,387,113	8,992,821	394,292

入会金 6,000円×318人
会費 16,000円×318人

項目	[単位:円]		
	19年度予算 (A)	19年度決算 (B)	比較 (A)-(B)
基金積立金	300,000	300,000	0
大会積立金	500,000	500,000	0
名簿積立金	500,000	500,000	0
小計	1,300,000	1,300,000	0
事業部	1,200,000	1,240,974	△ 40,974
総務部	1,800,000	1,654,491	145,509
会報発行費	2,500,000	1,623,055	876,945
会議費	400,000	322,750	77,250
IT・関連費	600,000	463,848	136,152
雑費	200,000	117,299	82,701
名簿会計へ	1,000,000	0	1,000,000
予備費	387,113	0	387,113
当期支出合計③	9,387,113	6,722,417	2,664,696
当期収支差額①-③	△ 1,991,098	279,306	△ 2,270,404
次期繰越②-③	0	2,270,404	△ 2,270,404

平成20年度 桐朋学園同窓会収支予算報告

(平成20年4月1日 至平成21年3月31日)

項目	[単位:円]		
	20年度予算 (A)	19年度予算 (B)	比較 (A)-(B)
入会金	1,896,000	1,908,000	△ 12,000
会費	5,056,000	5,088,000	△ 32,000
60周年記念大会より返済	400,015	400,015	0
雑収入	0	0	0
当期収入合計①	7,352,015	7,396,015	△ 44,000
前期繰越	2,270,404	1,991,098	279,306
収入合計②	9,622,419	9,387,113	235,306

入会金 6,000円×316人
会費 16,000円×316人

項目	[単位:円]		
	20年度予算 (A)	19年度予算 (B)	比較 (A)-(B)
基金積立金	300,000	300,000	0
大会積立金	500,000	500,000	0
名簿積立金	500,000	500,000	0
小計	1,300,000	1,300,000	0
事業部	1,200,000	1,200,000	0
総務部	1,800,000	1,800,000	0
会報発行費	2,000,000	2,500,000	△ 500,000
会議費	400,000	400,000	0
IT・関連費	600,000	600,000	0
雑費	200,000	200,000	0
名簿管理会計	1,000,000	1,000,000	0
予備費	1,122,419	987,098	135,321
当期支出合計③	9,622,419	9,987,098	△ 364,679
次期繰越①-②	0	△ 599,985	599,985

(進路指導部主任・佐野芳樹)

一 全国の動向

本年度の大学入試は新指導要領での三年目であり、現役生は新カリキュラムで全ての学習をしてきた最初の学年であった。入試問題の出題内容や難易度は、今は安定していく模様である。

センター試験の平均点が昨年度よりも上がったにもかかわらず、国立大の出願者数はやや減少し、全体的に安全志向の出願となった。後期縮小となった東京大はやや減少したが、一橋大では微増であった。これは一部の受験生が東京大から一橋大に志望を変更したのと思われる。また、東工大・一橋大では後期の志望者が増加したが、これも東京大の後期縮小の影響によるものである。これらの難関校の人気は、今後も高いまま推移していく見込みである。

一方、私立大の出願者数は、一般入試・

大学合格者数

4月19日現在

大学名	合格者数		合計
	現役	浪人	
国立大学	30	1	4
北海道大	1	3	4
東北大	0	1	1
関東大	0	1	1
北信濃大	0	1	1
山梨大	0	1	1
新潟大	0	1	1
富山大	0	1	1
石川大	0	1	1
福井大	0	1	1
岐阜大	0	1	1
静岡大	0	1	1
愛知県立大	0	1	1
岐阜県立大	0	1	1
滋賀県立大	0	1	1
京都府立大	0	1	1
大阪府立大	0	1	1
兵庫県立大	0	1	1
徳島県立大	0	1	1
香川県立大	0	1	1
高松県立大	0	1	1
愛媛県立大	0	1	1
高知県立大	0	1	1
福岡県立大	0	1	1
佐賀県立大	0	1	1
熊本県立大	0	1	1
鹿児島県立大	0	1	1
沖縄県立大	0	1	1
私立大学	77	81	158
文部科学省所轄外大学	0	1	1
防衛医科大学校	0	1	1
国際医療福祉大学	1	0	1
国際基督教大学	1	0	1
国際大学	1	0	1
大学校合計	1	1	2
(国立医学部合計)	(5)	(12)	(17)
私立大学	0	1	1
獨逸大学	11	18	29
山梨学院大	3	5	8
山形大	5	1	6
北信濃大	1	1	2
山梨学院大	40	52	92
山梨学院大	1	2	3
山梨学院大	3	6	9
山梨学院大	3	6	9
山梨学院大	12	7	19
山梨学院大	1	2	3
山梨学院大	15	12	27
山梨学院大	3	3	6
山梨学院大	2	2	4
山梨学院大	0	6	6
山梨学院大	30	42	72
山梨学院大	2	4	6
山梨学院大	0	2	2
山梨学院大	2	4	6
山梨学院大	2	4	6
山梨学院大	37	41	78
山梨学院大	1	17	18
山梨学院大	0	13	13
山梨学院大	2	4	6
山梨学院大	16	58	74
山梨学院大	0	22	22
山梨学院大	13	68	81
山梨学院大	4	2	6
山梨学院大	2	0	2
山梨学院大	0	1	1
山梨学院大	0	1	1
山梨学院大	0	1	1
山梨学院大	0	1	1
山梨学院大	0	1	1
山梨学院大	21	34	55
私立大合計	320	467	787
(私立大医学部)	(7)	(20)	(27)

センター利用入試共に増加した。特にセンター利用入試の志願者は、平均点が昨年度より上昇したため大幅な増加となり、私立大全体では昨年度比110%で、慶応大・早稲田大・上智大・東京理科大学だけで見ると昨年度比142%にもなる。出願者が増加した要因は、国立大の後期縮小の影響と現役志向の高まりによるものと推測される。また、学部系統別に志願者数を見ると、経済・商学系の人気が高く、理工系、薬学・保健系も増加した。文・人文学系、教育学系、農学系、医・歯学系には特に変化が見られなかったが、法学系は減少した。

来年度は今年度と同様に、入試形態を変更する大学が見られる。特に東京大に引き続き一橋大が後期縮小となるが、その減少分は前期の募集増となる。東京大や一橋大のように、前期の募集増となる変更はむしろチャンス拡大といえる。その他にも、学部・学科の改組を行う大学や新たに統合を予定する大学もあり、今後の動向が引き続き注目される。

二 センター試験
本年度の志願者数は543385人で、前年度より99677人の減少となった。現役・既卒とも減少した。ここ数年、多くの国立大では「5教科7科目」以上を課す入試へと変更してきたが、今回実施したのは126大学387学部で、全体の約7割にあたる。一部の医学部で理科3科目入試を行うなど科目数増の流れは続いている。また、センター利用入試を実施する私立大は増加を続け、466大学1316学部となった。これは私立大全体の8割に達する。本校現役生(62期)の平均点は、5教科7科目型(900点満点)で理系は688点、文系は711点で、全体的には約77.4%の得点率であった。昨年度よりも理系は約19点、文系は約47点の上昇で、よく対応した生徒は文系に多くみられた。センター試験対策として、直前に時間を割くだけになってしまいう生徒が見受けられるが、それでは効果はあまり期待できない。一般入試の対応にして

も同じことがいえるが、日々の課題を明確にし、それをすぐに消化していく習慣を早い段階で身につけた生徒ほど、志望が叶っていることは言うまでもない。まずはしっかりとした学習基礎を作り、高2までの授業で理解を深めておくことが肝要である。

三 本校入試結果

本年度の結果は上表の通りで、東京大・京都大・一橋大・慶応大・早稲田大・国立大医学部等、昨年度よりも数字が伸び、良く健闘した。現役生の合格体験率は約61%、進学率は約46%であった。

62期の生徒諸君も笑顔で卒業していった。充実した高校生活を送ってくれたのだと思う。卒業の笑顔にプラスして進路決定の笑顔も沢山見せてくれた。63期以降の生徒諸君も、様々な事柄に真剣に取り組みなながらも各自が志望する進路を実現してもらいたい。そのような「桐朋生」であることを期待し、我々教員も全力でサポートしていきたい。

桐朋学園 入学試験の現状

(校報より転載)

小学校

上岡 学

入試期間は十一月五日 から八日まで
の四日間、受験生はそのうち二日間の考
査という、例年通りの日程で行いました。
応募者数は753名で、前年度より減
少となりました。

試験の内容は今回も教員全員で時間をか
けて検討しました。就学前の子どもたち
が身につけている生活習慣や経験してき
た活動などが自然に無理なく表現され
るものを求めています。また、子ども
たちが課題に興味を持ち、楽しく取り組
める形にすることも大切にしています。
審査の最中は子どもたちに怪我などのな
いよう問題作成の段階から考慮していま
す。また、交通機関の乱れ、悪天候を毎
年憂慮していますが、四日間とも順調に
終了しました。

小学校では児童の通学時間を五十分以
内と定めています。通学による体力的お
よび精神的な負担を考慮し、学校生活に
エネルギーを注げるようにするためで
す。この点についても教員全員で話し合
いを重ねて決定しました。保護者の皆様
がその趣旨を理解された上で出願くださ
り、入学後も協力してくださっているこ
とを感謝しています。

中学校

村野 英治

首都圏では受験者数が過去最高を記録
し、東京西部・多摩地区では大学の付属
校の移転や公立中高一貫校の新設など
あり受験熱が高まっています。そんな中
今年度の応募者数は657名、昨年比
31名、5%の減少となりました。

他校の様子を見てみると、多くの難関校
が応募者を減らしている中で、チャレン
ジ層が抜けたのではないかと見ていま
す。地域別受験者数は、東京都区内と神
奈川がやや減少し、東京多摩地区と埼玉
は横ばいでした。試験当日の欠席者数は
11名で、この数年で一番少ない数です。
入試当日は、中央線に遅れがありまし
たが、遅刻者はなく、予定通りに入試を
終えることができました。問題作成に
当たる姿勢や出題内容は例年通りです。
合格者最低点は208点、得点率65.
0% (昨年は209点、65.3%)で、
昨年度とほぼ同じでした。

合格者の地区別分布は多摩地区53%
(昨年52%)、区部11%(14%)、神奈川
県25%(21%)、埼玉東7%(11%)、他
府県・外国3%(3%)です。埼玉県が
減少し、神奈川県が増加しました。

今年度から、問題冊子を回収せず、受
験生の持ち帰りとなりました。これによる
混乱はなく、持ち帰るのを忘れた受験生
もいませんでした。

高校

小島 智之

今年度も高校入試は、一般入試と推薦
入試を実施いたしました。

推薦入試は、30分程度の面接と調査書等
による総合判定で選抜しました。募集人
数が約10名、応募者数は13名でした。昨
年の21名から7名減少しました。当日は
欠席者もなく、そのうち10名を合格とし
ました。

一般入試は、例年通り国語、英語、数
学の筆記試験を中心に、面接と調査書を
加えた総合判定で選抜しました。募集
人数は約40名で、推薦入試とあわせて
約50名となります。今年度の応募者数は、
282名で昨年の224名から58名増
加しました。また、当日の欠席者は22名
でした。地区別では、多摩地区、区部、
神奈川県からの受験者は昨年と比べ増加
したのに対し、埼玉県の受験生は減少し
ました。

合格最低点は300点満点中177
点で、昨年の166点より上がりまし
た。国語、英語、数学とも思考力を要す
るバランスのとれた問題を出題できた
と自負しております。

合格者の地区別分布は、多摩地区が
66%(昨年62%)、区部15%(15%)、神
奈川15%(13%)、埼玉2%(8%)、他
府県1%(1%)、海外1%(2%)です。

最近6ヶ年の応募状況

年度	区分	小学校		中学校		高校			
		募集数	応募数	募集数	応募数	募集数	応募数		
2003		約72	843	約190	589	約50			189
2004	一般	約72	814	約72	695	約40	約10		239
	推薦					約10	約10		37
2005	一般	約72	830	約72	757	約40	約10		272
	推薦					約10	約10		28
2006	一般	約72	825	約72	674	約40	約10		208
	推薦					約10	約10		20
2007	一般	約72	791	約72	688	約40	約10		224
	推薦					約10	約10		21
2008	一般	約72	753	約72	657	約40	約10		282
	推薦					約10	約10		13

「桐源の集い」

2008年6月8日の会

毎年、6月に開催される桐朋祭の日程に合わせた日曜日に、退官された先生方をご招待する「桐源の会」が開かれています。

後列左から…片岡先生（現職）、沖村先生（現職）、和中先生、榎本先生、高沢先生、貫井先生、奥山先生、巻羽先生（現職）、浦島先生（現職）、鈴木事務局長
前列左から…山中先生、水沢先生、小柳校長（現職）、羽賀先生、来住野先生、高橋先生



「桐朋学園同窓会 会員名簿データ更新調査のお願い」

同窓会ではこれまで5年毎に名簿を編集・発行してまいりましたが、近年、個人情報保護法の施行をはじめとして情報化社会の規範が大きく遷移した為、現在は名簿発行そのものを見合わせております。しかしながら名簿データの保守は必要ですので、今回7年ぶりの一斉動向調査を実施して名簿データの確認作業を進めることになりました。つきましてはお届け致しました会報の封筒記載の住所をご確認願います。

訂正が必要な場合は同封の「訂正カード」に記入の上、セキュリティーシールを貼ってご返送ください。また、電話番号、勤務先等に変更がありましたらあわせて記入をお願い致します。

来年度は同窓会のIT環境の整備強化を予定しており、安全で使い易いサービスを目指したいと考えております。正確な名簿データは同窓会の重要な財産です。是非、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

名簿管理部担当理事
濱谷 秀樹

【訂正カード】記入の留意事項】

- 訂正が必要な方のみ必要箇所に記入の上、ご投函下さい。切手不要です。
(変更・訂正の無い方は「訂正カード」の返送は不要です。)
- 現在、学生の方は原則としてご実家の住所をご記入ください。
- ご本人が転居あるいは下宿の場合は、ご家族の方が記入いただいても結構です。
- 勤務先名は簡潔にお願いします。

【お問合せ先】

〒186-0004
東京都国立市中3-1-10
桐朋学園同窓会 事務局
Tel 042-576-6162
(火・木 10:00～16:00)
Fax 042-580-5152
E-mail: info@toho-dousoukai.jp

☞ ご注意！

日頃、同窓会とは全く関係のない業者が、職業別名簿等の各種案内を行っています。当同窓会では代行業者に委託して動向調査や名簿発行を行うことは一切ありません。十分にご注意ください。不審の場合は必ず事務局にお問い合わせください。

編集後記

編集作業も押し迫った12月4日に、表紙の写真撮影のために桐朋に立ち寄った。

以前、正門や校庭、御厩林を掲載していたので、さて今年は何を撮ろうかと案じながら校内を回ったのだが、心配は杞憂に終わった。御厩林だけでなく、校内に林立する木々や生垣の紅葉で色づいた様はじつに見事だった。表紙が白黒印刷のため、その印象をストレートにお伝えできないのが残念である。

おそらく40年、30年前も、木々の姿、立ち居に大きく変わりはないはずで、あの頃目にしてるのに思いが至らなかったことに気付き、少し恥じ入った次第だ。僕らはなんて貧乏な環境で育ったのだろう。表紙の写真は、野球グラウンドの奥から撮影したもの。銀杏を始めとする木々は、西日を浴びながら紅と緑と黄色のコントラストで、空に映えてすっくと立っていた。7pの「11期生の集い」は、本来、昨年号に掲載すべき原稿でした。11期の先輩方には、たいへんご迷惑をおかけしました。

桐朋学園同窓会 会報 第31号

発行者 桐朋学園同窓会
〒186-0004
東京都国立市中3-1-10
TEL 042-576-6162
FAX 042-580-5152
WEB <http://www.toho-dousoukai.jp>
発行人 桐朋学園同窓会
会長 並木敏孝
印刷所 (有)キョーワ工芸

(同窓会報は、再生紙を使用しています)